

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2020年8月11日

【四半期会計期間】 第155期第1四半期(自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)

【会社名】 株式会社福島銀行

【英訳名】 THE FUKUSHIMA BANK, LTD.

【代表者の役職氏名】 取締役社長 加藤 容 啓

【本店の所在の場所】 福島県福島市万世町2番5号

【電話番号】 024(525)2525(代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役企画本部長 佐藤 明 則

【最寄りの連絡場所】 埼玉県さいたま市大宮区宮町二丁目81番地
いちご大宮ビル4階
株式会社福島銀行 大宮支店

【電話番号】 048(643)2830(代表)

【事務連絡者氏名】 支店長 早川 貴 郎

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

株式会社福島銀行 大宮支店
(埼玉県さいたま市大宮区宮町二丁目81番地
いちご大宮ビル4階)

(注) 大宮支店は金融商品取引法の規定による縦覧に供する場所ではありませんが、投資者の便宜のため縦覧に供する場所としております。

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

		2019年度 第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)	2020年度 第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)	2019年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
経常収益	百万円	3,077	2,924	13,475
経常利益(は経常損失)	百万円	110	739	494
親会社株主に帰属する四半期純利益(は親会社株主に帰属する四半期純損失)	百万円	122	754	
親会社株主に帰属する当期純利益	百万円			409
四半期包括利益	百万円	272	1,378	
包括利益	百万円			2,136
純資産額	百万円	28,450	28,472	27,151
総資産額	百万円	724,649	770,574	755,605
1株当たり四半期純利益(は1株当たり四半期純損失)	円	5.31	26.97	
1株当たり当期純利益	円			17.20
潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	円			
潜在株式調整後1株当たり当期純利益	円			
自己資本比率	%	3.90	3.67	3.57

- (注) 1 当行及び連結子会社の消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。
2 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益は、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
3 自己資本比率は、(四半期末(期末)純資産の部合計 - 四半期末(期末)非支配株主持分)を四半期末(期末)資産の部の合計で除して算出しております。

2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当行及び当行の関係会社が営む事業の内容については、重要な変更はありません。また、主要な関係会社についても、異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が連結会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があると認識している主要なリスクの発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

以下の記載における将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

(金融経済環境)

当第1四半期連結累計期間のわが国経済は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響により厳しい状況にありましたが、緊急事態宣言解除後の経済活動再開により一部に持ち直しに向けた動きを見せております。しかしながら、感染拡大の第2波の影響も懸念されており、先行きは極めて不透明な状況にあります。

当行の主たる営業基盤である福島県の経済は、公共投資が災害等の復旧関連工事により高水準で推移しているものの、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響を主因に厳しい状況にあります。

(財政状態)

当第1四半期連結会計期間末の総預金(譲渡性預金を含む)は、前連結会計年度末比11,273百万円増加し、728,924百万円となりました。これは主に、個人預金の増加によるものです。

貸出金は、前連結会計年度末比14,459百万円増加し、544,363百万円となりました。これは主に、事業性貸出金が増加したことによるものです。

有価証券は、前連結会計年度末比4,255百万円増加し、123,716百万円となりました。これは主に、社債及び国債が増加したことによるものです。

(経営成績)

当第1四半期連結累計期間の経常収益は、前第1四半期連結累計期間比153百万円減少し、2,924百万円となりました。これは主に、有価証券利息配当金が減少したことによるものです。

経常費用は、前第1四半期連結累計期間比696百万円増加し、3,664百万円となりました。これは主に、その他経常費用が増加したことによるものです。

この結果、経常利益は、前第1四半期連結累計期間比849百万円減少し、739百万円の損失となりました。また、親会社株主に帰属する四半期純利益は、同876百万円減少し、754百万円の損失となりました。

(セグメント業績)

「銀行業」の経常収益は、前第1四半期連結累計期間比170百万円減少し、2,436百万円となりました。一方、経常費用は同668百万円増加し、3,157百万円となりました。この結果、セグメント利益は、同838百万円減少し、721百万円の損失となりました。

「リース業」の経常収益は、前第1四半期連結累計期間比18百万円増加し、489百万円となりました。セグメント利益は、同13百万円減少し、15百万円の損失となりました。

「クレジットカード業・信用保証業」の経常収益は、前第1四半期連結累計期間比2百万円減少し、38百万円となりました。セグメント利益は、同1百万円損失が減少し、2百万円の損失となりました。

国内・国際業務部門別収支

当第1四半期連結累計期間の資金運用収支は、前第1四半期連結累計期間比82百万円減少し、1,718百万円となりました。これは主に、有価証券利息配当金の減少によるものです。

役務取引等収支は、前第1四半期連結累計期間比12百万円増加し、272百万円となりました。これは主に、役務取引等収益が増加したことによるものです。

その他業務収支は、前第1四半期連結累計期間比30百万円増加し、17百万円となりました。これは主に、その他業務費用の減少によるものです。

種類	期別	国内業務部門	国際業務部門	相殺消去額()	合計
		金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
資金運用収支	前第1四半期連結累計期間	1,782	21	2	1,801
	当第1四半期連結累計期間	1,713	7	2	1,718
うち資金運用収益	前第1四半期連結累計期間	1,832	22	5	(0) 1,849
	当第1四半期連結累計期間	1,763	8	6	(0) 1,764
うち資金調達費用	前第1四半期連結累計期間	50	0	2	(0) 48
	当第1四半期連結累計期間	49	0	4	(0) 45
役務取引等収支	前第1四半期連結累計期間	259	0		259
	当第1四半期連結累計期間	272	0		272
うち役務取引等収益	前第1四半期連結累計期間	580	0	22	559
	当第1四半期連結累計期間	587	0	14	573
うち役務取引等費用	前第1四半期連結累計期間	321	0	22	299
	当第1四半期連結累計期間	314	0	14	300
その他業務収支	前第1四半期連結累計期間	56	3	5	47
	当第1四半期連結累計期間	21	1	2	17
うちその他業務収益	前第1四半期連結累計期間		3		3
	当第1四半期連結累計期間	0	1		1
うちその他業務費用	前第1四半期連結累計期間	56		5	50
	当第1四半期連結累計期間	21		2	18

- (注) 1 「国内業務部門」とは、国内店及び国内連結子会社の円建取引であります。
 2 「国際業務部門」とは、国内店の外貨建取引であります。
 3 資金調達費用は、金銭の信託運用見合費用(前第1四半期連結累計期間0百万円、当第1四半期連結累計期間0百万円)を控除して表示しております。
 4 「相殺消去額()」は、グループ内の取引額であります。
 5 資金運用収益及び資金調達費用の合計欄の上段の計数は、国内業務部門と国際業務部門の間の資金貸借の利息(内書き)であります。

国内・国際業務部門別役務取引の状況

当第1四半期連結累計期間の役務取引等収益は、前第1四半期連結累計期間比13百万円増加し、573百万円となりました。

一方、役務取引等費用は、前第1四半期連結累計期間比0百万円増加し、300百万円となりました。

種類	期別	国内業務部門	国際業務部門	相殺消去額()	合計
		金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
役務取引等収益	前第1四半期連結累計期間	580	0	22	559
	当第1四半期連結累計期間	587	0	14	573
うち預金・貸出業務	前第1四半期連結累計期間	210		21	189
	当第1四半期連結累計期間	194		13	180
うち為替業務	前第1四半期連結累計期間	114	0	0	115
	当第1四半期連結累計期間	109	0	0	109
うち証券関連業務	前第1四半期連結累計期間	24			24
	当第1四半期連結累計期間	43			43
うち代理業務	前第1四半期連結累計期間	4			4
	当第1四半期連結累計期間	4			4
うち保護預かり・貸金庫業務	前第1四半期連結累計期間	14			14
	当第1四半期連結累計期間	13			13
うち保証業務	前第1四半期連結累計期間	16		0	16
	当第1四半期連結累計期間	23		0	23
うち保険窓販業務	前第1四半期連結累計期間	62			62
	当第1四半期連結累計期間	106			106
うち投信窓販業務	前第1四半期連結累計期間	132			132
	当第1四半期連結累計期間	91			91
役務取引等費用	前第1四半期連結累計期間	321	0	22	299
	当第1四半期連結累計期間	314	0	14	300
うち為替業務	前第1四半期連結累計期間	28	0	0	28
	当第1四半期連結累計期間	27	0	0	27

(注) 1 「国内業務部門」とは、国内店及び国内連結子会社の円建取引であります。

2 「国際業務部門」とは、国内店の外貨建取引であります。

3 「相殺消去額()」は、グループ内の取引額であります。

国内・国際業務部門別預金残高の状況

預金の種類別残高(未残)

種類	期別	国内業務部門	国際業務部門	相殺消去額()	合計
		金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
預金合計	前第1四半期連結会計期間	685,393	154	536	685,010
	当第1四半期連結会計期間	729,433	105	614	728,924
うち流動性預金	前第1四半期連結会計期間	351,258		386	350,871
	当第1四半期連結会計期間	395,686		464	395,221
うち定期性預金	前第1四半期連結会計期間	332,316		150	332,166
	当第1四半期連結会計期間	330,098		150	329,948
うちその他	前第1四半期連結会計期間	1,818	154		1,972
	当第1四半期連結会計期間	3,648	105		3,754
譲渡性預金	前第1四半期連結会計期間				
	当第1四半期連結会計期間				
総合計	前第1四半期連結会計期間	685,393	154	536	685,010
	当第1四半期連結会計期間	729,433	105	614	728,924

- (注) 1 「国内業務部門」とは、国内店の円建取引であります。
 2 「国際業務部門」とは、国内店の外貨建取引であります。
 3 預金の区分は、次のとおりであります。
 流動性預金 = 当座預金 + 普通預金 + 貯蓄預金 + 通知預金
 定期性預金 = 定期預金 + 定期積金
 4 「相殺消去額()」は、グループ内の取引額であります。

国内・国際業務部門別貸出金残高の状況

業種別貸出状況(未残・構成比)

業種別	前第1四半期連結会計期間		当第1四半期連結会計期間	
	金額(百万円)	構成比(%)	金額(百万円)	構成比(%)
国内業務部門	503,481	100.00	544,363	100.00
製造業	27,643	5.49	30,471	5.60
農業, 林業	3,331	0.66	2,718	0.50
漁業	286	0.06	286	0.05
鉱業, 採石業, 砂利採取業	134	0.03	137	0.03
建設業	23,188	4.61	28,645	5.26
電気・ガス・熱供給・水道業	9,839	1.95	17,929	3.29
情報通信業	3,214	0.64	4,312	0.79
運輸業, 郵便業	12,251	2.43	12,499	2.30
卸売業, 小売業	29,569	5.87	35,011	6.43
金融業, 保険業	17,669	3.51	20,386	3.75
不動産業, 物品賃貸業	43,627	8.67	48,959	8.99
その他の各種サービス業	43,767	8.69	49,415	9.08
国・地方公共団体	103,234	20.50	94,651	17.39
その他	185,718	36.89	198,933	36.54
国際業務部門				
合計	503,481		544,363	

- (注) 1 「国内業務部門」とは、国内店及び国内連結子会社の円建取引であります。
 2 「国際業務部門」とは、国内店の外貨建取引であります。

(2) 会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

当第1四半期連結累計期間において、会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定について重要な変更はありません。

(3) 経営方針・経営戦略等、経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標等

当第1四半期連結累計期間において、経営方針・経営戦略等、経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標等についての重要な変更及び新たに定めた事項はありません。

(4) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第1四半期連結累計期間において、連結会社が優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 資本の財源及び資金の流動性

当第1四半期連結累計期間において、前連結会計年度の有価証券報告書に記載した（資本の財源及び資金の流動性）の内容について重要な変更はありません。

(6) 研究開発活動

該当事項はありません。

(7) 従業員数の状況

当第1四半期連結累計期間において、連結会社又は提出会社の従業員数の状況に著しい増加又は減少はありません。

(8) 主要な設備の状況

当第1四半期連結累計期間において、主要な設備の状況に著しい変動はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	90,000,000
A種優先株式	90,000,000
計	90,000,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (2020年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (2020年8月11日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	28,000,000	28,000,000	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数は100株でありま す。
計	28,000,000	28,000,000		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金 増減額 (百万円)	資本金 残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2020年6月30日		28,000		18,682		

(5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2020年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 23,700		単元株式数は100株であります。
完全議決権株式(その他)	普通株式 27,910,400	279,104	同上
単元未満株式	普通株式 65,900		同上
発行済株式総数	28,000,000		
総株主の議決権		279,104	

(注) 1 「完全議決権株式(自己株式等)」の株式数の欄は、全て当行保有の自己株式であります。

2 「完全議決権株式(その他)」の株式数の欄には、株式会社証券保管振替機構名義の株式が1,800株含まれております。また、議決権の数の欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権が18個含まれております。

【自己株式等】

2020年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社福島銀行	福島県福島市万世町 2番5号	23,700		23,700	0.08
計		23,700		23,700	0.08

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

第4 【経理の状況】

1 当行の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(2007年内閣府令第64号)に基づいて作成しておりますが、資産及び負債の分類並びに収益及び費用の分類は、「銀行法施行規則」(1982年大蔵省令第10号)に準拠しております。

2 当行は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(自2020年4月1日至2020年6月30日)及び第1四半期連結累計期間(自2020年4月1日至2020年6月30日)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツの四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
資産の部		
現金預け金	76,484	73,768
商品有価証券	122	159
金銭の信託	1,012	1,012
有価証券	² 119,460	² 123,716
貸出金	¹ 529,903	¹ 544,363
外国為替	263	272
リース債権及びリース投資資産	4,885	4,832
その他資産	17,375	16,385
有形固定資産	9,738	9,880
無形固定資産	267	255
繰延税金資産	12	10
支払承諾見返	258	238
貸倒引当金	4,179	4,319
資産の部合計	755,605	770,574
負債の部		
預金	717,650	728,924
借入金	6,870	8,365
外国為替	9	4
その他負債	2,462	3,488
賞与引当金	165	46
退職給付に係る負債	206	203
睡眠預金払戻損失引当金	180	180
利息返還損失引当金	1	1
繰延税金負債	7	7
再評価に係る繰延税金負債	642	642
支払承諾	258	238
負債の部合計	728,454	742,102
純資産の部		
資本金	18,682	18,682
資本剰余金	1,808	1,808
利益剰余金	9,962	9,151
自己株式	19	19
株主資本合計	30,434	29,623
その他有価証券評価差額金	4,031	1,911
土地再評価差額金	720	720
退職給付に係る調整累計額	142	133
その他の包括利益累計額合計	3,454	1,324
非支配株主持分	171	173
純資産の部合計	27,151	28,472
負債及び純資産の部合計	755,605	770,574

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年6月30日)
経常収益	3,077	2,924
資金運用収益	1,849	1,763
(うち貸出金利息)	1,495	1,566
(うち有価証券利息配当金)	343	186
役務取引等収益	559	573
その他業務収益	3	1
その他経常収益	¹ 665	¹ 585
経常費用	2,967	3,664
資金調達費用	48	45
(うち預金利息)	45	43
役務取引等費用	299	300
その他業務費用	50	18
営業経費	2,036	1,973
その他経常費用	² 533	² 1,326
経常利益又は経常損失()	110	739
特別利益	20	0
固定資産処分益	20	-
その他の特別利益	-	0
特別損失	0	0
固定資産処分損	0	0
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失()	129	739
法人税、住民税及び事業税	5	9
法人税等調整額	0	2
法人税等合計	6	11
四半期純利益又は四半期純損失()	123	751
非支配株主に帰属する四半期純利益	1	3
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主 に帰属する四半期純損失()	122	754

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失()	123	751
その他の包括利益	148	2,129
その他有価証券評価差額金	141	2,120
退職給付に係る調整額	7	9
四半期包括利益	272	1,378
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	270	1,375
非支配株主に係る四半期包括利益	1	3

【注記事項】

(追加情報)

前連結会計年度の有価証券報告書の(追加情報)に記載した下記の仮定について重要な変更はありません。

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染拡大に伴う経済への影響は今後1年程度続くものと想定し、特に当行グループの貸出金等の信用リスクに一定の影響があるとの仮定を置いております。こうした仮定のもと、当行グループの貸出金等への影響調査を実施した結果、一部の債務者の債務者区分を足許の業績悪化の状況を踏まえて修正して貸倒引当金を計上しております。当該仮定は不確定であり、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染拡大の状況やその経済への影響が当初の想定より変化した場合には、損失額が増減する可能性があります。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 貸出金のうち、リスク管理債権は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
破綻先債権額	717百万円	709百万円
延滞債権額	9,046百万円	9,448百万円
3ヵ月以上延滞債権額	11百万円	百万円
貸出条件緩和債権額	239百万円	259百万円
合計額	10,015百万円	10,417百万円

なお、上記債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。

2 「有価証券」中の社債のうち、有価証券の私募(金融商品取引法第2条第3項)による社債に対する保証債務の額

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
	25,564百万円	27,382百万円

(四半期連結損益計算書関係)

1 その他経常収益には、次のものを含んでおります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)
貸倒引当金戻入益	111百万円	百万円
償却債権取立益	14百万円	20百万円

2 その他経常費用には、次のものを含んでおります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)
貸倒引当金繰入額	百万円	139百万円
株式等償却	15百万円	465百万円
株式等売却損	7百万円	172百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)
減価償却費	138百万円	135百万円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自2019年4月1日至2019年6月30日)

1 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年6月25日 定時株主総会	普通株式	45	2.00	2019年3月31日	2019年6月26日	利益剰余金

- 2 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日
後となるもの
該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自2020年4月1日至2020年6月30日)

1 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2020年6月23日 定時株主総会	普通株式	55	2.00	2020年3月31日	2020年6月24日	利益剰余金

- 2 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日
後となるもの
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)

1 報告セグメントごとの経常収益及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント(百万円)			合計 (百万円)	調整額 (百万円)	四半期連結 損益計算書 計上額 (百万円)
	銀行業	リース業	クレジット カード業・ 信用保証業			
経常収益						
外部顧客に対する経常収益	2,584	452	40	3,077		3,077
セグメント間の内部経常収益	21	18	0	40	40	
計	2,606	471	41	3,118	40	3,077
セグメント利益 (はセグメント損失)	116	2	4	110		110

(注) 1 一般企業の売上高に代えて、経常収益を記載しております。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)

1 報告セグメントごとの経常収益及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント(百万円)			合計 (百万円)	調整額 (百万円)	四半期連結 損益計算書 計上額 (百万円)
	銀行業	リース業	クレジット カード業・ 信用保証業			
経常収益						
外部顧客に対する経常収益	2,418	471	38	2,927	2	2,924
セグメント間の内部経常収益	18	18	0	37	37	
計	2,436	489	38	2,964	40	2,924
セグメント利益 (はセグメント損失)	721	15	2	739		739

(注) 1 一般企業の売上高に代えて、経常収益を記載しております。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常損失と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(金融商品関係)

当第1四半期連結貸借対照表計上額と時価との差額及び前連結会計年度に係る連結貸借対照表計上額と時価との差額に重要性が乏しいため、または前連結会計年度の末日に比して著しい変動がないため、記載を省略しております。

(有価証券関係)

有価証券の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度の末日に比して著しい変動がないため、記載を省略しております。

(金銭の信託関係)

該当事項はありません。

(デリバティブ取引関係)

デリバティブ取引の四半期連結会計期間末の契約額等は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動がないため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失及び算定上の基礎は、次のとおりであります。

		前第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)
1株当たり四半期純利益又は 1株当たり四半期純損失()	円	5.31	26.97
(算定上の基礎)			
親会社株主に帰属する四半期純利益又は 親会社株主に帰属する四半期純損失()	百万円	122	754
普通株主に帰属しない金額	百万円		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益又は親会社株主に帰属する 四半期純損失()	百万円	122	754
普通株式の期中平均株式数	千株	22,976	27,976

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益は、潜在株式が存在しないため記載していません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年8月7日

株式会社福島銀行
取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

仙台事務所

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士 墨 岡 俊 治

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士 石 坂 武 嗣

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社福島銀行の2020年4月1日から2021年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（2020年4月1日から2020年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（2020年4月1日から2020年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社福島銀行及び連結子会社の2020年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当行(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。